



横浜国立大学憲章

横浜国立大学は、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、一人一人の在り方を尊重し合う「多様性」を重んじ、世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねることを宣言する。



多様性

人間と学問の多様性を教育・研究の礎として、新しい価値を共創していくために、性別、障がい、国籍などを超えて、多様な学生と教職員が尊重し合い共生・協働していく場を構築し、一人一人が豊かにその力を発揮できるようにする。

MAP

学生センター
(S5-1)
バリアフリー推進部門
Barrier-Free Accessibility Section



本部西棟
(N2-3)
男女共同参画部門
Gender Equality Section
D&I教育研究実践センター
Education and research center for
diversity and inclusion

Address

ダイバーシティ戦略推進本部 diversity@ynu.ac.jp



● 男女共同参画部門 D&I教育研究実践センター
〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台79-1 N2-3
045-339-3234 sankaku@ynu.ac.jp

● バリアフリー推進部門
〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台79-8 S5-1
045-339-3118 shougai.shien@ynu.ac.jp

2025年 1月 改訂

YNU Diversity

多様性のある大学を目指して

DIVERSITY

本部長 メッセージ

横浜国立大学長
梅原 出



横浜国立大学は、多様性（Diversity）と包摂性（Inclusion）こそが、国際的競争力のある卓越した研究と次世代教育を実現する高等教育機関のダイナミズムになるという考えから、2020年4月にダイバーシティ戦略推進本部を設置し、学長自らが本部長を務めるとともに専任のダイバーシティ担当副学長を新たに任命しました。

また、法人化に際し制定した「横浜国立大学憲章」を、社会情勢の変化を踏まえ、2023年3月に改定し、これまでの4つの理念に『多様性』を加えました。今、『多様性』は人類が様々な困難を乗り越える上で最も重要な概念であり、本学の現状と未来を鑑みた時、極めて重要との考えによるものです。

本学では、これまでも女性研究者・女子学生や留学生の支援等で多くの実績を上げて参りましたが、女性だけではなく両性支援、留学生だけではなく外国につながる学生や教職員への配慮、さらに経済困窮学生への支援、LGBTQ+ などの性的少数者に対する理解啓発、障がいのある学生や教職員への支援を進め、差別や偏見のないキャンパスコミュニティの構築等を進めています。また、多様な価値観や属性を重視するにあたっては、どのようなバックグラウンドを持っていようと、安心して学び、働き、それぞれが最大限に力を発揮して自己実現できる環境こそが求められていると考えます。しかし、多様性と包摂性のある大学づくりに向けた途上でさまざまな課題や摩擦にも直面します。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

男女共同参画部門

男女共同参画部門では、男女の垣根なく参画できる未来を創造し、男性と女性がともに社会に参画して活躍することを支援しています。

主な活動・支援

教育・研究支援

- 研究支援員制度
- メンター制度



育児・介護支援

- 意識醸成のためのセミナー実施
- サポートルームの運営

その他

- 図書の貸出し

D&I教育研究実践センター

D&I 教育研究実践センターは、障がい等の有無にかかわらず、全ての子供が共に学ぶインクルーシブ教育の実現に資する教育実践と研究に取り組んでいます。



バリアフリー推進部門

バリアフリー推進部門は、障がい学生支援室を中心として、障がいのある学生、LGBTQ+ 等、社会的障壁の存在を感じる方々のバリアを取り除き、本学で生き生きと活動できるよう支援と啓発活動を行っています。

主な活動・支援

- 障がいのある学生、セクシュアルマイノリティの修学における配慮に関すること
- 障がいのある学生、セクシュアルマイノリティのキャリア支援及び就職支援に関すること
- 障がいのある学生、セクシュアルマイノリティへの相談体制に関すること
- 障がいのある学生、セクシュアルマイノリティの支援に関する啓発活動及び意識改革推進に関すること



障がい学生支援室
WEBサイト



ユニバーサルデザイン整備計画

多様性のある大学コミュニティを形成するため、バリアフリーを推進しつつ、最終的には誰もが学び研究できる、ユニバーサルデザインに配慮したキャンパスの実現を目指します。

